

第 2965 回例会 No7 2015 年 8 月 25 日

◆例会プログラム

1. 開会点鐘
2. ロータリーソング斉唱
3. 会長の時間
4. クラブフォーラム
花巻 RC の IT 化について (広報委員担当)
5. 石崎青空さん
花巻 RC 親善大使委嘱状授与式
5. 幹事および委員会報告
6. 出席報告
7. ニコニコボックス
8. 閉会点鐘

◆幹事報告

①ガバナー月信へ投稿のお願い

ガバナー月信編集委員会

②10/17(土)~18(日)

ロータリー青少年プログラムRYLA

締切日変更 8/31(月) ガバナー事務所

◆第 2964 例会の概要

■会長の時間 佐々木 史昭君



☆会長の時間「花巻東高校の健闘と橋野高炉遺跡」

先週 8 月 11 日火曜日の例会は年間プログラムによって休会であり、お盆休み明け 2 週間ぶりのロータリークラブ例会です。みなさまはお盆休みどのお過ごしでしょうか。

この間あった出来事と言えば、やはり花巻東高校の甲子園に於ける健闘でしょう。1 回戦は 8 月 7 日金曜日千葉代表の専大松戸とあたり、プロも注目する専大松戸のエース原君を見事に攻略して 4-2 で

快勝致しました。エースの高橋樹也(みきや)君もコントロール良く右バッターの内角を突く速球に力強さがあり、大会を代表する左腕と評価されました。2 回戦は選抜大会に優勝した福井県代表の敦賀気比とあたり、下馬評では大差で負けるのではないかと私も思っておりましたが、敦賀気比のエース平沼君のスライダーを見極めて左右のバッターがそれぞれ逆方向に狙い撃ち 18 安打で 8 点を奪い、先発の加藤三範(みつぐ)も肩と肘の関節が柔らかく球速以上に手元まで球に力があるタイプで 5 回を 3 点に抑え、格上のチームに思い通りの試合運びが出来、快勝でした。3 回戦は同じ東北勢同士、今大会準優勝した仙台育英との激突となりました。2 回戦と同様加藤三範君が先発しましたが、敦賀気比戦のようなケレン味なく腕を思い切って振る投球が出来ず、仙台育英の強力打線に外角中心のコントロール重視で球を揃えてしまい初回から連打を浴び 1 回で降板、2 回からエースの高橋樹也を投入する展開となりました。高橋君も長打を警戒して外角中心の投球でしたが、長打は打たれなかったものの 4 点を奪われ追いかける展開となりました。仙台育英も先発した 2 番手ピッチャーを引きずり下ろしエースの佐藤世那君を引っ張り出しましたが、フォークボールが得意の投球に対し早めのストライクを狙わせましたが、それをヒットにできるバッティング力が足りませんでした。相手の打撃が鋭く、ランナーを置いて再三いい当たりが野手の正面を突くラッキーに助けられ接戦となりましたが、ひっくり返すだけの攻撃力がありませんでした。9 回の反撃機で盗塁憤死があったのも残念でした。試合後の佐々木洋監督のコメントにも、「力の差があった。もっと点数を取られるかとヒヤヒヤしていた。」とのコメントがあり、まったくその通りだったと思います。 ①

秋田商業と仙台育英は 30 年前に東北の強豪と言

われてきたチームでありましたが、ここ最近では東北地方の勢力図も代わり、花巻東高校や青森光星学院、福島聖光学院が常連校となっており、かつての強豪校が東北から2校ベスト8に残ったのは高校野球の歴史を感じます。東北に深紅の大優勝旗をもたらすのはどのチームになるのか、おそらくここ10年には達成されるものと思いますが、花巻東高校にぜひそれを達成して欲しいと願うものであります。今や花巻と言えば、大谷翔平や菊池雄星を輩出した強豪花巻東高校があるまち、名監督佐々木洋監督のいるまちであります。高校野球は指導する監督次第であり、花巻東高校は佐々木洋という希有な人材を発掘し、育て、見事に学校経営を成功させているのだと思います。花巻東高校野球部からはその薫陶を受けた若者が地域に巣立っていきます。「まちづくりはひとづくり」をまさに地で実践されています。この次は、地域が後押しをして、花巻東高校に全国大会優勝させなければなりません。花巻東高校にはそれだけの土壌が整いつつあると思います。花巻ロータリークラブには花巻東高校の関係者も多いので、当クラブならではの貢献もできるのではないのでしょうか。佐々木洋監督の話をしつくり聞いて、本当に佐々木監督が欲している事をサポートしてあげることも、花巻のまちづくりに大きなヒントがあるように思います。

またこのことは佐々木洋監督だけに限ったことではなく、どんな分野でもよいから、その分野で飛び抜けていて、さらにそれを上げていける人材を発掘し、地域で育てていく、これがまちづくりなのだと思います。花巻ロータリークラブの立ち位置もそこなのではないのでしょうか。ロータリー奨学生でも、留学生でも、若手経営者でも、スペシャリストでもよい、この地域に居る大きな可能性をもった人材を発掘し、育てていくのが我々の使命ではないでしょうか。みなさんの周りにそのような人材はいらっしゃいませんか。ぜひ彼らを認め、後押ししていきたいものと思います。

ところでお盆休み中、世界文化遺産に登録された明治日本の産業革命遺産における橋野高炉遺跡及び関連遺跡を見て参りました。同時に釜石の鉄の歴史

館も見て参りました。鉄の仕事に携わっている私としては、改めて日本の鉄鋼産業に於ける釜石の序列の高さを再確認させて頂き、今回九州4県と山口県、静岡県に加えて岩手県の釜石が世界遺産に認定されたことは岩手県の鉄に関する業界にとっては本当に貴重な事であったと思います。

南部藩士大島高任は盛岡の仁王小学校裏で藩医の長男として生まれ、17歳から江戸や長崎で蘭学を学び、西洋の兵学や砲術、採鉱や冶金技術を学び、南部藩に戻る前水戸藩の徳川斉昭に請われて那珂湊に反射炉を建設し大砲を鑄造しましたが、砂鉄を原料とするたたら製鐵では限界があり、良質な磁鉄鉱石、木炭、石灰、水が豊富な釜石の橋野の地で南部藩直轄により日本初の洋式高炉の操業を行い、1858年12月1日に初出鉄に成功しました。この12月1日は鉄の日となっています。1868年明治時代に入った最盛期には従業員1000人、年間出鉄量930tで当時の国内出鉄量の60%を超えていた日本最大の製鉄所でありました。高炉の内壁に使われる煉瓦は花巻産でしたが、東北本線が開通したのは明治24年(1891年)、岩手軽便鉄道が仙人峠まで開通したのは大正4年(1915年)ですから、花巻から釜石まで馬車が牛車で煉瓦を運んだものと思われる。

1880年(明治13年)には官営釜石製鉄所が発足致しましたが、1883年(明治16年)に閉鎖となり、静岡県出身の実業家田中長兵衛が払い下げを受け、1887年(明治20年)釜石鉱山田中製鉄所を設立、工場長は横山久太郎(静岡県出身)、そして高炉技術者が地元釜石出身の高橋亦助(またすけ)でありました。この高橋亦助の功績によりコークス鉄の出鉄に成功したということです。

大島高任は1901年に亡くなりましたが、明治政府は官営八幡製鉄所の立ち上げにあたり、高任の息子盛岡生まれの大島道太郎を明治29年(1896年)技監に任命し、欧米に派遣しました。大島は各国を視察していく中で、設計から建設までをドイツのグーテホフヌクスヒュッテ社(GHH.)に依頼し、創立案(鋼材生産量6万トン/年)では規模が小さいため9万トン/年に拡大するよう変更し、1901(明治34)年歴史的な火入れが行われました。八幡製鉄所の立

ち上げにあたっては、釜石製鉄所から7名の高炉技術者が派遣されています。

釜石製鉄所は1924年（大正13年）三井鉱山の系列下に入り釜石鉱山株式会社となり、1934年（昭和9年）には製鉄所の大同合併により日本製鐵株式会社釜石製鉄所となりました。1945年（昭和20年）8月9日2回目の米軍の釜石艦砲射撃により製鉄所は壊滅状態となり操業停止、高炉操業再開は1948年（昭和23年）5月15日となりました。1950年（昭和25年）には財閥解体の一環として日本製鐵は富士製鐵と八幡製鐵に分割され、富士製鐵釜石製鉄所となり、1970年には再度富士製鐵と八幡製鐵所が合併して新日本製鐵株式会社が発足、そして2012年に新日鐵住金株式会社が発足し、現在に至っています。

大島高任は日本近代製鐵の父と呼ばれ釜石駅前に銅像があり、それを受け継いだ田中長兵衛（静岡県出身）、横山久太郎（静岡県出身）の胸像が新日鐵住金釜石製鉄所本部玄関脇にあります。

花巻と釜石の関係は、まさに鉄の歴史から始まっているのであり、私たちは世界遺産登録を契機に釜石と鉄の歴史についてもっと勉強し、誇りを持っていかなければならないと感じました。

本日は少々長めの会長の時間となりましたが、ご静聴ありがとうございました。

以上

◆クラブフォーラム

■会員増強に因んで（会長エレクト担当） 吉田 和洋君



7月末に、8月の特別総会に変更になった旨、国際ロータリー日本事務局 クラブ・地区支援室から連絡が参りました。

変更前名称： 「会員増強・拡大月間」

“Membership and Extension Month” から

変更後名称： 「会員増強・新クラブ結成推進月間」 “Membership and New Club

Development Month”と、今年度から変わります。会員増強についてクラブ会員増強委員会の手引書には、“クラブの会員基盤を築くには、入会候補者を探し出すと同時に、現会員を維持する必要があり、新会員が入会することで、新鮮なアイデアや新しいエネルギーがもたらされます。一方、現会員は、クラブの意義ある活動を続けていくために欠かせない存在です”とあり会員増強推進とともに、会員維持活動の重要性も記載されています。クラブの現状評価を時折しながら、長所と短所を確認し、会員や新会員候補の方々へ十分な情報提供をしていくこと必要かと思えます

当クラブの本年度活動計画書で会員の職業分類を改めて確認してみますと・・・

下記ようになります。

現在の充填職業分類は31業種。

・商業的活動 13業種・専門職業活動 8業種
・工業的活動 7業種・団体活動 3業種

未充填職業分類は（活動計画書参照）

・商業的活動では16業種
・専門職業活動 13業種
・工業的活動 4業種 ・団体活動 7業種
が記載されています

その他にも教育者や設計士など、忘れていた職種があるかと思えます。

会委員拡大を図るには、ご承知の通り未充填分野・新分野の会員さんの発掘が大事になってきます。そして拡大にあたっては、会員の皆様おひとりおひとりからのご紹介が大事になってきます。

ただ勧誘・紹介にあたっては、やみくもにどなたでも・・・というわけではないかと思えますので、出席もさることながらロータリーの四つのテストにある事柄の実践が可能か、奉仕の精神を理解し、今後一緒に実践していただけるか、会員間の協調性を図れるかなどが一つの基準になるのではと考えます。また、会員紹介にあたりましては情報開示が大切ともおもいます。そういった意味では今年度開設いただきました花巻ロータリークラブの公式ホームページを大いに活用して参りたいと思います。ロータリーの精神、活動内容、会費、奉仕事業、そして菊の

会の活動等説明しご理解いただき、ただ入会しただけではなく、一緒に活動できる方にご入会いただけるよう、会員の皆様に於かれましては、未充填分野を常に念頭においていただきまして会員拡大にご協力いただければと思いますので、宜しくお願い致します。

■『第2回米山功労者マルチプル』



感謝状を受け取る稲田典之君（左）



◆出席報告

31人中 15人の出席
出席率 55.6
前回修正 63.0
◆メーキャップ なし

◆ニコニコボックス

☆佐々木 史昭君

一週間休んだだけで、ロータリーの例会が恋しくなり、みなさんの顔を拝見してホットしている自分も、ロータリー漬けになっているのかな〜と、納得しております。花巻東高校野球部の甲子園での活躍、大変うれしく思います。花巻東高校に関連する、すべての方に敬意を表します。

☆吉田 和洋君

会員拡大へのみなさまの情報、ご協力をお願い申し上げます。

☆佐藤 良介君

過日、(株)中央コーポレーション様より創立50周年記念事業として花巻北高校桜雲同窓会に対して、多額のご寄附を頂きました。今後、花巻北高校の国際交流基金として国際社会に貢献できる人材の育成のために有効に活用させていただきます。佐々木史昭社長様、誠にありがとうございました。

☆三田 望君

①8月16日、秋田県西馬音内(にしもない)盆踊りに参加(見物人として)して来ました。深夜11時頃、クライマックスを迎えました。かがり火の中、独特な幽玄な雰囲気

気でした。

②早退します。

☆滝田 吉郎君

感動の甲子園、花巻東の三試合楽しみました。佐々木監督からのメールで感謝と選抜目指し頑張ると心強い言葉が返ってきました。皆様、応援・支援ありがとうございました。特に立花君！！

☆橋川 秀治君

8月18日、東京出張のため欠席となります。ガバナー補佐、会長、委員長、事務局の皆さんのあたたかい心遣いへの感謝と名前を忘れられないために……

5000円！！メールでお送りいたします。宜しくお願い致します。

クラブ史上初！！

ニコニコボックス・メール投稿



◆前回例会のメニュー



『鯛のオープン焼き和風ソース』



◆次回のプログラム

9月1日(火) 慶祝該当者スピーチ <例会前理事会>

◆今後のプログラム案内

9月8日(火) 菊の会合同夜例会

■ゲストスピーチ/ベン・ペル(職業奉仕委員会担当)

9月15日(火) ■ゲストスピーチ/

花巻市教育委員会教育長 佐藤 勝様

(青少年奉仕大委員会担当)

9月22日(火) 休 会(国民の休日)

9月29日(火) ゲストスピーチ

■花巻北高のASMSA 視察報告(青少年奉仕委員会担当)

10月6日(火) 慶祝該当者スピーチ <例会前理事会>

10月13日(火) ゲストスピーチ

■るんびにい美術館長 三井信義 様(人間尊重委員会担当)

◆クラブ会報委員：鹿討康弘/多田浩二/佐藤誠吾/
鳥畑昭裕/橋川秀治/小山田泰彦/飯塚正晴

◆事務局 〒025-0075 花巻市花城町10-27

花巻商工会議所内 花巻ロータリークラブ

TEL /FAX : 0198-41-1133

Mail : hrc@hanamaki-cci.or.jp

URL <http://www.hanamaki-rc.com> 記事担当/鹿討